



11月県議会(11/21~12/6)

11月29日の**石坂ちほ**県議の一般質問と答弁の要旨を紹介します。

## 【リニア新幹線 JRは地元住民の懸念・要望に応じて】

**石坂** トンネル掘削で水源はどうなるのか、絶滅危機が指摘されている渡り鳥への影響はどうか、1日最多1700台のダンプカーが通行し住環境への影響が心配、など地元住民や市町村、さらには日本自然保護協会からも様々な懸念が出されている。来年3月までに提出される知事意見書では、地元の意見を最大限尊重し、JRがこれらの課題を解決することを県の基本的な立場としてほしい。

**阿部知事** 住民、市町村の意見に十分配慮し、知事意見を取りまとめたい。事業者（JR）に対しては知事意見を十分勘案して進めるよう求めていく。

**石坂** 懸念や課題が残されたまま見切り発車とならないよう、事業の当面凍結、見直しをJRに要望を。

## 【中学生の朝練廃止 子どもたちも交えた丁寧な合意づくりを】

**石坂** 心身ともに成長期にある中学生にとって過度の負担が心配されてきた「部活動の朝練習」については、様々な立場から議論された検討委員会の「原則として廃止」の報告を歓迎し、廃止にあたっては、子どもたちも含めた双方向の意見交換など、丁寧な合意づくりに努めてほしい。

**教育長** 部活動をしている生徒・していない生徒、高校生、大学生、保護者等にも周知してパブリックコメントを実施しており、意見を頂戴しながら検討していきたい。

## 【生活困窮者支援 今後の継続と柔軟な運用を求める】

**石坂** 現在国会で生活困窮者への新たな支援制度が審議されているが、県が実施してきた「パーソナルサポート事業」と「絆再生事業」は相談者に寄り添い粘り強く相談・支援に取り組んできた経験の蓄積があり、「継続性」を大事にしてほしい。

「絆再生事業」は民間団体の支援活動に対して補助金がだされるものだが、ボランティアや相談員などの交通費や炊き出しなどは補助対象に認められていない。厚労省の説明では、事業の趣旨に沿う支出は認められるという見解であり、改善してほしい。

**健康福祉部長** パーソナルサポート事業は現在4か所ある相談拠点を増やす方向でやっていきたい。絆再生事業は、事業内容をもう少し丁寧に聞いてなるべく弾力的に運用していきたい。

## 【発達障害児支援 保育所の職員加配に補助を】

**石坂** 発達障害児が増えており、保育施設（認可・認可外とも）の職員を加配するための人件費補助が受けられるよう、保育園でも幼稚園でも等しく支援を検討してほしい。幼稚園では補助対象とならないが要支援の「グレーゾーン」の子どもに対して、やはり補助対象にしていく手立てを現場の関係者とともに考えてほしい。

**健康福祉部長** 県として実施した認可外保育施設と市町村へのアンケート調査の結果を踏まえ、市町村と引き続き検討していきたい。 **総務部長** 現行制度の改善点がないか検討していきたい。